

(1) 令和3年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

評価項目		自己評価	学校関係者評価	
1	宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことを通して、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 【実践と自己評価】①②中一・高2は11月に1日の錬成会・黙想会を学校で、中二・高1は12月に宿泊型の錬成会、研修会を実施出来た。今年の卒業アンケートの記述には、特に精神的な成長を感じさせるものが多かった。 【学校関係者評価を受けて】コロナ禍に負けず、今後もカトリック校として、生徒の精神面の成長を大切に、宗教行事や様々な活動がマンネリ化しないように、全教員で協力して取り組んでいきたい。	A	A	静岡雙葉での教育(宗教教育)は、卒業してからも生きる上での糧となっていると高く評価されている。今年度、コロナ禍の中でも、宗教行事を中止せず工夫して実施したことは大変評価できる。今後も本校らしい取り組みを継続、発展させていって欲しい。
	学習指導の充実・学力の向上 ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③教員1人ひとりがより良い授業を行うための具体的な取り組みを行う。 ④高2以下の生徒全員に配布された個人持ちのタブレット端末や他のICT機器を有効に活用し、主体的学習やアクティブラーニングを取り入れた授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、(オンラインによるものを含む)海外研修、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座への積極的参加を促す。 【実践と自己評価】①②③感染状況の悪化により9月はオンライン授業の実施を余儀なくされた。2月にも感染が拡大しオンライン授業となったが、昨年度の経験も踏まえ、教員、生徒共にスムーズに移行することができた。高3に関してはオンライン授業と対面授業を組み合わせた形でも実施し(9月)、受験に向けての対応を行った。 ④オンライン授業に関して教員同士での研修や情報交換なども活発に行い、効果的な方法の工夫ができた。 ⑤英検では、6月と1月に本校を準会場として実施し、多くの生徒の受験の機会を確保することができた。イギリス研修、シンガポール研修を含め、オンラインによる様々な研修が実施され、多くの生徒が参加した。 【学校関係者評価を受けて】国の教育改革の中でも、今後、特に必要とされるのは主体的、能動的な学習姿勢と協働力、対話力等の育成であるとされている。ICT機器の利用も、その新しい学びを念頭に研究を進めたい。	A		A
3	自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導) ①基本的な生活習慣の確立に努める。 ②自律心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSの功罪、注意点について学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設(クリスマス)訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 【実践と自己評価】①②各学年の成長段階に応じて生活習慣の確立に向けて指導を行った。スマホやSNSの使用について、中学で情報モラル講座を実施し、ネットとの関わり方について学び、高1ではアンケートも実施して保護者・生徒と一緒に講演を聞く機会を設けた。③前期生徒会では、校外の方と共に地域交流イベントを開催し小学生との交流を行った。その他、生徒有志によるフェアトレード商品の販売や、オンラインでの済州国際フォーラムに参加(高1)など、活発に活動できた。④3年振りに釜ヶ崎フィールドワークも実施した。 【学校関係者評価を受けて】スマホやiPadの使い方に限らず、今後でもできる限り家庭の協力を得ながら生徒の成長を支援していきたい。ボランティア活動等、様々な支援活動は、生徒の発案を大切にしながら取り組ませたい。	A	A	基本的な生活習慣や自律心を育むことは家庭の教育に依るところも大きいですが、社会的規範意識、社会性などの育成については、学校での一層の取り組みを期待する。スマートフォンやインターネット、SNSに関する注意点については、家庭とも連携しながら、最新の情報をもとに啓発活動を続けて欲しい。 コロナ禍の中でも、生徒たちが様々な支援活動に積極的に参加していることは大変素晴らしいことであると評価できる。
	たくましく未来を切り開く力の育成(進路指導) ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修等の様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を把握し、的確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ③今年度、いよいよ3学年(中三・高1・高2)に広がった「コース制」における様々な企画を、各学年で着実に実施し、特にテーマ研究の仕上げの年となる高2での取り組みを実りあるものにする。 【実践と自己評価】①7月に中三から高2の生徒対象に山極寿一氏による「未来への志を育む」講演会を実施した。10月には県内の大学を中心に講師に來校いただき、対面での大学出張講義を実施した。 ②10月に高2生徒、保護者一緒に進路講演会を実施した。教務課、進路学習指導課を中心に次年度からの新カリキュラムに関する情報収集に努め、準備を進めている。中三でベネッセ講師による進学講演会を実施し、高校での学習に向けて意欲を高めた。③3月に実施した高2コース制発表会は、生徒にとって研究の実りと新たな課題を発見する場ともなり、自己の学びのフィールドを深め広げる機会となった。生徒の自己評価も高かった。 【学校関係者評価を受けて】生徒の進路選択には、学力だけでなく、在校時の様々な体験学習が影響している。コース制では、これまでの取り組みを振り返り、更に新しい体験や講演会を企画、実施していく予定である。	A		A
5	生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定した防災備品の充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に行う。 ④生徒が、自分の命を自分で守れるよう、防災訓練等をより実践的のものにして、地震・火災等への防災意識と危機対応能力を高める。 【実践と自己評価】①危機マニュアルを点検し、新年度版として差し替えを行った。 ②防災用品の備蓄状況を確認した上で中1の防災用品を夏休み中に揃えた。 ③夏休み中に在庫点検を行うと共に、発電機と汲み上げポンプの試運転を行った。 ④8月末に計画していた防災訓練はコロナ禍のため中止とした。11月に抜き打ちで地震防災訓練を実施した。3月末には防火訓練として各ホームルーム教室から校庭への避難訓練を行い、危機対応力の向上を図った。 【学校関係者評価を受けて】防災用品の備蓄については、非常食の内容や災害時のトイレ対策の検討を継続し改善していきたい。防災訓練は、様々な場合を想定して、より実践的なものとなるよう工夫したい。	B	B	防災食の種類も増えているので生徒の希望を聞くなど、非常食の内容を見直して、食事の面も含めた災害時の対策をして欲しい。学校に自動販売機を設置している企業と災害時における食料や飲料水などの提供をお願いするなどの取り決めを検討してはどうか。災害時に生徒が学校に残留したり、断水などが起こった場合のトイレ対策も十分しておいて欲しい。
	(学校側のまとめ) 新型コロナウイルスの感染拡大により、8月以降、行事等の変更に加え変更を余儀なくされたが、教職員がよく協力して対応し、オンライン授業の実施や宗教行事の延期実施など、できる限り生徒の学びを止めないように努めた。また、感染防止のため活動が制限される中でも、雙葉祭や高2コース制発表会が実施できた他、校外の様々な支援活動に生徒の積極的参加が見られたのは大変良かった。	(学校関係者評価委員会のまとめ) 静岡雙葉の教育のベースである宗教教育は、生徒たちの精神性の涵養と学力の向上にその成果が認められる。コース制の取り組みは最初の学年が3年間の成果を発表会という形で完了したが、学校の報告からは教員たちが何年も時間をかけて準備し、情熱をもって指導してきたことが伺える。その他の様々な取り組みも、多くの項目で高く評価できるものが多いが、更なる努力、工夫を継続して欲しい。		

自己評価 : A 良くできた B できている C 改善を要する D より努力が必要

学校関係者評価 : A 大変評価できる B 評価できる C 改善を要する D 評価できない